

学年	中学1年	教科	音楽	科目	音楽I	単位数	2
教科書名		中学生の音楽1 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)		副教材名	音楽のキャンパス1 (教育芸術社)		
コース・クラス		中高一貫					

## 1. 目標

基礎的な音楽表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。  
多様な音楽に興味、関心を持ち、幅広く鑑賞する能力を育てる。  
また、アルトリコーダーの基礎的な知識及び技術を身に付ける。

## 2. 授業のねらい

歌唱・発声を通して声の出る仕組みを知る。  
・合唱を通して、声を合わせて歌う喜びを知る。  
器楽・アルトリコーダーを通じて楽器の基礎を身に付ける。  
鑑賞・器楽曲や外国語の歌曲に触れ、作品の特徴や表現の多様さを感じる。

## 3. 授業の進め方

- (1) 正しい発声練習をし、声を鍛えながら、教科書やプリントの曲を楽しく歌唱する。
- (2) 演奏と同時にワークやプリント、映像などを使いながら作品の理解を深める。
- (3) さまざまな音楽を鑑賞し、それぞれの曲がもつ表現を感じ取り、ワークにまとめる。

## 4. 学習上の留意点

- (1) 発声練習でしっかりと声を出し、正しい姿勢で歌うこと。
- (2) 教科書、ノート、楽器を忘れず用意し、授業に取り組むこと。
- (3) 提出物の期限は必ず守ること。

## 5. 定期試験

定期試験期間では行わず、歌唱・器楽テストを授業時間中に行う。時期は、各学期の定期試験の1週間前の授業内とする。また、実技試験を行えない状況の際には、授業時間中にペーパー試験を課す場合もある。

## 6. 評価方法

実技では歌唱テストおよび器楽テストなどを行い、鑑賞ではノートの記載を適切に行なっているかを確認し、評価をする。鑑賞ではノートの記載を適切に行なっているかということも評価の対象とする。授業態度(忘れ物を含む)平常点として、忘れ物、授業態度が適切でない者(遅刻・私語・授業に不必要な持参物等)は減点する。

## 7. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	年間通して、発声は必ず行う。 ・歌唱「校歌」歌唱テスト	実技テスト 小テスト 提出物 授業態度	音程を正しく、正確に歌う。 歌詞を覚える。
	5	・音符、休符、記号の確認 ・鑑賞「春（ヴィヴァルディ）」 ・歌唱「主人は冷たい土の中に」 「エーデルワイス」		音楽の基礎知識を確認する。 演奏される楽器などの構成を知る。作品を知り、作曲者への理解を深める。
	6	・歌唱「主は冷たい土の中に」歌唱テスト		ハーモニーの変化を感じながら歌う。アルトリコーダーについて知る。
	7	・アルトリコーダー 構造、指番、チューニング 姿勢と構え方、タンギング ・演奏「喜びの歌」「かっこう」 ・アルトリコーダーテスト		演奏を通し楽器の構造を知る。
二学期	9	・歌唱「浜辺の歌」歌唱テスト ・合唱練習 (曲目は年度によって選曲する)	実技テスト 小テスト 提出物 授業態度	フレーズの特徴を生かし、表現を工夫して歌う。 歌詞を理解し、曲への理解を深める。
	10	・鑑賞「魔王（シューベルト）」 原語（ドイツ語）と日本語 ・歌唱「パフ」		詩の内容と曲想の変化との関わりを感じ取る。 作曲家・作品への理解を深める。鑑賞の魔王は、日本語とドイツ語の歌詞の味わいを感じ取る。
	11	・アルトリコーダー		リコーダーはサミングを習得する。
	12	右手を加えた運指、サミング 「カノン」「オーラリー」 ・クラッピングカルテット①		合奏においては、自分の技術だけでなく相手もきちんと聴いて合わせることを学ぶ。
三学期	1	・歌唱「赤とんぼ」歌唱テスト	実技テスト 小テスト 提出物 授業態度	詩や曲の雰囲気にあった声で言葉の抑揚をつけて歌う。 作詞・作曲者の代表作にも触れながら、自分達の歌唱にも日本の伝統文化に親しみを持つ。
	2	・鑑賞「箏曲 六段の調」  ・アルトリコーダー		曲想を感じ取って、速度や強弱の変化を生かした表現を工夫する。
	3	「われは海の子」 ・合唱練習 ・学年末まとめ、卒業式歌の練習		合唱は、他者との協調性を学び、合わせることの大切さも感じながら演奏する。

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。